第 298 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞

とらいあんぐる

2015 年 1･2 月

一音会ミュージックスクール発行

「車椅子」

母が亡くなった日から、まる３年がたとうとしています。

亡くなってしばらくは、言葉では尽くせない悲しみの中、自分にこういいきかせていました。

「３年。３年。とにかく３年だけ、何とかがんばってみよう。きっと３年後には、少しは悲しみがやわらぎ、気持ちが整理されているだろう」

突き刺すような痛みに似た強い悲しみが、鈍い痛みに変わるまで、３年の月日が必要と、どこかで誰かがいっていたような気がします。

それが、頭に残っていたのだと思います。

その後も、強い悲しみにおそわれるたび、「３年、３年・・・」と唱え、歯をくいしばってきました。

とにかく３年たえれば、楽になれる・・・それが私のよりどころでした。

その３年がたとうとしています。

長い時間だったと思います。

３年がたちましたが、残念ながら、楽になることはありませんでした。

今も、母を想わない日は、１日としてありません。

人前で涙をこらえきれないということはなくなりましたが、一人になれば、

泣けて泣けて仕方がないことが、よくあります。

お恥ずかしい話ですが、私は母の死をまったく消化できないまま、３年という長い時間を過ごしてきたと感じます。

それまでの４０余年、母とともに過ごした時間があまりに長く、濃密だったせいなのかもしれません。

母がのこしたものがあまりに大きく、私が抱えてあまりあるからかもしれません。

つい先日、こんな夢を見ました。

夢の中で私は、母と一緒に、横浜の街に来ています。母の生前には、一度もかなわなかったことです。

母は、高速道路から横浜の夜景を見て、「一度、横浜に行ってみたいわ。どんなところなのかしら」といっていました。

しかし、かなわずじまいです。

横浜ほど近く、しかもアクセスの良いところに、なぜ行かなかった？と思われることでしょう。

人でにぎわっているところに、母を連れ出すのは、とてもたいへんなことだったからです。

車椅子は場所をとります。人ごみでは、とても迷惑になってしまいます。人が多いと、なかなか前に進めません。

また車椅子に乗った母は、車椅子のステップに足を乗せているのですが、その足先が、少しでも何かに触れると激痛をともなうのです。

健康な人なら、少し何かに触れたくらいでは、触れたことに気づくくらいで痛むことはありませんが、母はちょっと何かが触れただけで、飛び上がるように痛むのです。

人の多いところに連れ出すことが難しい一番の理由はそれでした。

ところが夢の中の横浜の街は、人でにぎわっているにもかかわらず、私と母の望む方向に、すいすいと進むことができます。

母の車椅子の進む方向だけ、何も障害物がありません。

母が見たいものがあれば、簡単に足をとめ、店に入ってみることさえできました。

夢の中で私は、「何がどうなったのか分からないけれど、まるで夢のようだ！」と、興奮しています。

ある時は、中華街の店先で、一緒に肉まんを食べました。

ある時は、コーヒーショップで母の好きなカフェオレをテイクアウトしました。

ある時は、CD ショップに立ち寄り、いろいろな CD を手に取りながら、母といろいろな話をしました。

あちこちを見てまわり、楽しく過ごした後、私と母は、川べりのようなところに着き、私は一休みするため、ベンチに座りました。

母にたずねます。

「今日は、楽しかったね。お母さん、ほかに行きたいところある？」

母は、ある方向をながめながら

「そうね・・・ランドマークタワーに行ってみたいわ」

母の視線の先には、ランドマークタワーの上の方が見えていました。この近さなら、歩いて行けそうです。

「それは良い考えね！　私もランドマークタワーは、前から行ってみたかったの」

私は、道順を確かめるために、アイフォンを取り出しました。

「お母さん、ちょっと待っててね。ランドマークタワーまでの道順を調べてみるから・・・」

そういって、私はアイフォンの画面に目をうつしました。

そして、「やっぱり、大きな道にそって行くのが一番、はやそう・・・ね、お母さん・・・」

と、目を上げた先に、母はいませんでした。

車椅子はからっぽです。

母が一人でどこかに行けるはずもありません。

私の周りには、落ち葉が１枚、また１枚と舞い降ります。

私は、からっぽの車椅子を前に、ぼう然とします。

「母は、いつからいなかったのか？・・・母はずっと、いなかったのか？・・・母がいなかったことに、私だけがずっと気づかずにいたの

か？・・・私はずっと、母がいないことを認めないようにしていたのか？・・・私はずっと、からっぽの車椅子を押し、からっぽの車椅子に話しかけていたのか？・・・だから、道行く人が道をあけて、遠巻きに車椅子を押す私を見ていたのか？」

いろいろな思いがぐるぐるとまわり、私はその渦にのみ込まれていきます。

そこで私は夢から覚めました。

そして、夢の中の私は、今の私そのものだと思いました。

もしかしたら、私はこの３年というもの、ずっとからっぽの車椅子を押し続けていたのかもしれません。

今もなお、車椅子をたよりに前に進んでいるのかもしれません。

もうそこに母はいないのに、私は一生懸命、車椅子を押します。車椅子に身体を預けるしか、立っているすべがないのかもしれません。

人は、私の傷の深さにおののき、車椅子がからっぽであることを指摘することができません。ただ遠巻きに見ているしかありません。

それが私だと思いました。

今まで、ただただ精一杯で、人から見た自分、というものを考えたことがありませんでしたが、今の私はそんな状態なのかもしれません。

むなしくなり、悲しくなり、苦しくなった私は、いつものように娘のキョウコに、話をきいてもらいます。

母が生きていた頃、悲しいことや苦しいことは、すべて母にきいてもらっていました。

母がいなくなってからは、キョウコが窓口担当です。

私は、夢の話と、自分の状況について、話をしました。

「ママは、この３年、ずっとからっぽの車椅子を押してきたのかもしれない。もしかしたら、ママはこの先も、一生、からっぽの車椅子を押し続けるのかもしれない。そんな人生なのかもしれない・・・」

キョウコは黙りこんでしまいました。

「しまった」と思いました。

私は時々、キョウコがまだ子どもであることを忘れてしまいます。

子どもにするような話ではありませんでした。

キョウコは沈黙の後、こういいました。

「おばあちゃんが、いつの間にか消えてしまったように、ママが押している車椅子も、いつの間にか消えてしまうかもしれないよ。そうしたらママは、いつの間にか、一人で歩いているんだよ。いつの間にか、ね」

そこでキョウコはいったん言葉を切って、にっこり笑いました。

「私は、そうなるような気がする！」

キョウコは、また続けます。

「おばあちゃんが死んで、まだたった３年だよ。一生なんてこと、まだいわない方が良いよ」

そうか、「まだ３年なんだ・・・」と、私は気づきます。

「３年たてば・・・」と自分にいいきかせてきた私は、これからは、「まだ３年、まだ３年・・・」と唱えながら、また前を向いて、歯を食いしばって、生きていくでしょう。

（江口　彩子）

◆今年もよろしくお願いいたします

新年がスタートしています。

生徒さんも、ご家族の皆さまも、“今年の目標”を胸に、１年のスタートを切っていらっしゃることと思います。

私たちスタッフも、大きな目標を胸に、また１年間、全力で指導にあたらせていただきます。

私たちの目標は、いつも１つです。「生徒さんに、さらに音楽を好きになっていただき、この１年でさらに上手になっていただくこと」です。

今年も、ご家族の皆さまには、多くのご協力をお願いすることになるかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

「今年のあゆみ」とともに、「2015 年度変更希望表」、「月謝表」を、お配りしています（お月謝は今年度と変わりません）。

万が一、お手元にとどいていない場合は、「ショパンはうす」もしくは本部にご連絡ください。

「変更希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望をおうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。変更をご希望ではない場合にも、「変更なし」として、ご提出いただきたいと思います。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しいただけ

れば大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時で受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあけることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフがあたるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

ご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

希望表は、２月１５日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051　豊島区長崎 3-19-1

◆「フォルテの会」を開きます

３月１日（日）に、「フォルテの会」を開きます。場所は「ひびきホール」、入場は無料です。「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたクラブ」の生徒さんたちの発表会です。

副科に興味をお持ちの生徒さん、ご家族の方には、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。先生たちの演奏も予定しています。

出演申込みのご案内は、２月上旬ごろからお配りします。

◆プリドノフ先生ご夫妻のスケジュール

３月に、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻が来日されます。

今回は、２台ピアノによるコンサートを開いていただきます。昨年は、コンサートのかわりに公開レッスンをおこなっていただきましたので、コンサートは久しぶりになります。ぜひ皆さま、ご予定をあけて、足をお運びください。

例年通り、プライベートレッスン、および「ジュニコン・オーディション」もおこないます。「オーディション」の要項は、次の項をご覧ください。

プリドノフ先生ご夫妻に関する日程は、下記の通りです。

レッスン　：3 月 14 日（土）・15 日（日）・16 日（月）
コンサート：3 月 21 日（土）
ジュニアコンサート・オーディション：3 月 22 日（日）

今回、レッスン日程を、多くの方にとって受けやすい土曜日、日曜日を含む日程にしていただきました。この貴重な機会を、一人でも多くの生徒さんに活用していただきたいと思っています。

レッスンは、五線読譜が完成した生徒さんなら、どなたでも受けることができます。担当の先生と相談して、ぜひ準備をすすめてください。ご不明の点やお迷いの点がおありでしたら、お気軽に本部にご相談ください〔本部電話：０３－５９６６－７７１１・担当：谷口〕。

30 分レッスン‥‥レッスン料（10000 円）＋通訳（1600 円）→　11600 円
45 分レッスン‥‥レッスン料（15000 円）＋通訳（2500 円）→　17500 円
60 分レッスン‥‥レッスン料（20000 円）＋通訳（3300 円）→　23300 円

◆「ジュニコン・オーディション」にご参加ください

曲の難易度やテクニックが合否に大きく影響するオーディションが多い中、音楽性や将来性などを総合的に評価する、一音会独自の基準で開催するオーディションを、という趣旨でスタートした「ジュニアコンサート・オーディション」も、今年でとうとう 10 回目を迎えます。

３月２２日（日）に、「第 10 回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。

年ごとに生徒さんのレベルが上がり、昨年はとうとう、審査員をつとめるプリドノフ先生ご夫妻に、「誰も落とせない！　全員合格にするのはどうか？」といわしめたオーディションです。結果、皆さまご存知の通り、これまででもっとも厳しい

基準となり、もっとも少ない合格者となりました。

オーディション参加者には、全員にプリドノフ先生ご夫妻からの丁寧なコメントを差し上げます。たとえ願っていたような結果にならなくとも、得るものは大きいはずです。どうか不合格になることをおそれず、挑戦してください。

以下が、エントリーの要綱です。

① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこない、公開とします。たくさんの生徒さんにオーディションをきいて、学んでもらいたいからです。

② 曲目は自由です。演奏時間は最短 6 分から 12 分程度までとします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせてもよいです。6 分～12 分を目安とし、多少オーバーしてもかまいません。

③ エントリー資格者は、2015 年 4 月時点で、小学 4 年生～高校 3 年生の、一音会に在籍する生徒さんです。

④ エントリーするための費用は 15000 円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用 5000 円が必要になります。

⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4 月 28 日（火）夕方、「ゆめりあホール」でおこないます。

⑥ 強制ではありませんが、オーディションの前に、プリドノフ先生ご夫妻のどちらかのレッスンを受けて、的確なアドバイスをいただいておくのがよいと思います。
ただし、合否は当日の演奏のみで決まりますので、「先生ご夫妻のレッスンを受けなければ合格しない」などということはまったくありません。

◆タローズハウス・ファミリー館がしばらくお休みします

東長崎駅南口の「タローズハウス・ファミリー館」が改装工事のため、勝手ながら３月下旬までお休みいたします。４月から開店予定ですので、またご案内いたします。

ジーンズをはじめ、ファミリー向け衣料などの販売とともに、生徒さんがお使いになる一音会の教本も扱っていましたので、ご利用くださっていた生徒さんには、しばらくの間、ご不便をおかけしてしまいます。申し訳ございません。

◆一音会卒業生が学生音楽コンクールで１位になりました

一音会の卒業生で、現在、東京芸術大学付属高校１年生の黒沼香恋さんが、昨年 11 月 28 日、全日本学生音楽コンクール全国大会ピアノ部門で、第一位に選ばれました。

卒業生のご活躍を、心から祝福したいと思います。

一音会の卒業生の活躍を耳にする機会が多くなったことは、嬉しいかぎりです。「とらいあんぐる」紙上でご紹介できるのはそのごく一部ではありますが、できるかぎりこの場を使って、紹介、応援していきたいと考えています。

卒業生の皆さま、嬉しいことがあったら、ぜひお知らせください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp　　電　話：03-3954-9999

＊お電話での質問時間は、毎週水曜日の午後 7 時半～9 時半です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。